第 2015-07 号

恵みと真理のニュース

2015 年 2 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

道であり真理であり命である主の導きによって生かしてくださり、主だけを愛し表し、誇る家庭になて下さった神様の恵みに感謝します。

私は子供の頃村にある教会を通いましたが友達をついて上の空で行き来しただけでした。神様を信じなく不信者で生きました。1997年神様を信じない家庭の青年に出会い結婚して2男１女を産みました。旦那は酒を楽しんで享楽的な生活を送りました。新婚の楽しむこともなく子供を産んで楽しむ事と家庭の幸せを知らなくて日々を送りました。末子が小学校5年生の頃家計を助けるため職場を通い始めました。心と体がとても苦しかったです。
私の力と能力があまりにも弱くて自らどうやって現実を切り抜ける方法がなかったことを悟り絶望する時、神様は私に救いの手をだしてくださいました。恵みと真理教会の区域長から伝道され1997年始めて真実の主を救い主で受け入れました。礼拝で説教に耳を傾けて熱心に聴いて慰めと力を得て私の大変さを知っている神様は勇気と励まして下さり苦難を克服するように祈りました。賛美を捧げる時にも涙なしには歌えないくらい神様を仰ぎました。クリスマス礼拝と主日礼拝を続いて捧げる時には 聖書がやまない涙にぬれるくらいでした。その後から一年後、旦那も私をついて教会を通い始めました。しかし、旦那は酒を止めなくて続けて世を楽しんで形式的に信仰生活をしました。
私が熱心に礼拝を捧げ伝道に力をつけ職分を愛すると98年区域長の職分を与えられました。職分に恥ずかしくなく神様の栄光を覆わないようにもっと大胆に福音を伝えるため、旦那が真の変化され聖徒らしく生活をするように切に祈りました。家庭の様々な問題を解決され患難から脱するため、旦那のためエステル祈り会に出て全力を尽くして祈る時にいげんの賜物を受け聖霊で満たされました。神様の恵みに感謝を捧げもっと熱心に祈り生活をしました。
旦那の禁酒のため40日間朝断食祈りをしました。そしてその期間が終わる前に祈りが答えられました。“だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。”（ヘブライ人への手紙4：16）“ 主を呼ぶ人すべてに近くいまし／まことをもって呼ぶ人すべてに近くいまし主を畏れる人々の望みをかなえ／叫びを聞いて救ってくださいます。”（詩篇145：18, 19）ハレルヤ！旦那は好きだった酒を完全に止めました。そして、以後家庭生活にも充実して真実な生活をする聖徒で変りました。今は男性奉仕連合会に属して熱心に教会と聖徒のため仕えています。
何年前夫の弟がアルコール中毒の症状があって暴言を我慢できなくて弟の妻が家出をしました。私は区域長の祈り会と病院宣教かいにも祈りを頼み、月曜日祈り会と金曜日徹夜祈り会で涙を流しながら、祈りました。私が望んだ希望が答えられました。一年半ぶりに夫の妻が戻って来たし、神様はその家庭を導いてくださいました。
最近、私は甲状腺癌の手術を受けました。癌の診断を受けても恐くなかったです。今まで神様が与えてくださった恵みと愛を考え委ねて祈りをすると心が平安になり大胆になりました。当会長の牧師が祈ってくださり、教区と区域でも多くの方が自分のことのように祈ってくださいました。神様の摂理で手術が成功になり早く健康が回復されました。たとえ人が手術をしますがその中では神様の国と義を求める時に治癒されました。 神様は私と家庭のすべてのことがよくなるように共にしてくださいました。苦難を通して私と旦那が世の何よりも尊くて祝福ある魂が救われました。たとえ小さい事でも神様に仕え人々と分かち合う人生になるようになりました。主の名前で勝利し主が与えた使命を担える家庭になりました。私の長男と娘も神様の摂理で信仰がある配偶者に出会い真実な家庭を作りました。神様の限りない恵みと愛に感謝します。まだ未婚である息子も予備して摂理する神様の恵みで神様を熱心に信じるきれいな家庭を作る事を信じ期待します。そして、 舅姑が救われるように祈る私達の祈が答えられることを信じもっと熱心に祈ります。このすべてのことを成し遂げてくださった事に感謝し、任された首区域長と病院宣教会の奉仕の職分を真面目に忠誠することを決心します。すべての栄光を神様に捧げます。ハレルヤ！

[信仰コラム]　とても易しくて難しいの

…彼を信じる者は、さばかれない。信じない者は、すでにさばかれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである。

人が生きて行くのに自然法則を応用することはできてもその法則をつぶしてしまうことはできないです。ところで真実に幸せな生を暮すためにはもっと重要な法を守らなければなりません。 その誰も修正、変更させるとか破棄させることができない原則としての法があります。 これは神様が与えられるのであり決めたことで聖書に啓示されています。 その法が本文のお言葉に要約されています。 これは神霊なものですべての人に適用される原則です。 ところでこの法はこれを受け入れて守るのにあって相反する二つの面があります。 とても易しくて一方は難しいです。

第一に、イエスキリストを信じることはとても易しいという事実をよく見ます。
すべての人は罪責の荷物を背負っているし生の虚無と死の不安という荷物を背負っています。 宗教的な戒律、意識、修練が罪と生の無意味そして死亡の重圧感で自由するようにできないです。 教育や善行もこれを解決してくれることができなくて政治家、事業家、科学者も解決してくれることができないです。 ところでイエス様がこのような人生に真の自由と安息をくださるために大きい犠牲を支払いました。
イエスキリストのあがないの死によって人生に苦労して重い荷物がはげて自由と安息を得る道が開かれられたのです。
私たちに義を得るようになさって救いをくださるイエス様に進むことはとても簡単で易しいです。 イエスキリストを信じて迎接するのです。 イエスキリストがこの世の中へいらっしゃったことやまたよみかえたことは私たちの努力とは全然無関係です。 イエスキリストを信じることにほかの条件がないです。 誰でも信じることができます。 まことにたやすい事です。

二番目で、イエスキリストを信じることはとても難しいという事実をよく見ます。
イエスキリストを信じることは誰も信じることができるという側面で見る時たやすい事です。 しかし信じることに決断して持続的に信仰を固く持つことは決してたやすい事ではないです。 信じることに決断するのに多くの障害物があることができます。 家族の反対に直面する場合、社会生活に困難や不利益を受けなければならない場合があります。 またこの信仰で生きて行くことにもさまざまな障害物があります。患難と逼迫と誘惑を耐えて勝ち抜けなければなりません。
人の目を意識して適当に妥協する信仰生活は真実の信仰と認められることができないです。 教会に通って宗教生活をしたことが救いの保証にならないです。
真実の信仰が彼にあるのかということが重要です。
イエスキリストを信じるということはイエスキリストだけが救世主であるのを信じることを意味します。
宗教多元主義や混合主義や新神学、自由主義の信仰路線に沿うことは大きい門で、広い道に行くことです。
イエスキリストの神様だけが本当に神様です。 人生を救われるためにイエスキリストを送ったしあがないの死と復活を通じて信じる者を救われる神様のみを仕えなければなりません。 神様は嫉妬なさる神様です。偶像を仕えた者を必ず審判なさいます。 混合信仰を持っていることを受け入れないです。 このように妥協ない信仰を持って最後まで進むということはたやすい事ではないです。 ’門が狭くて狭窄’しかし、このような制限を嬉しく受け入れる信者にならなければなりません。 このような信者に聖霊が一緒になさって手におえる力を注ぎます。
イエス様はおっしゃるのを〝人の子が来るとき、地上に信仰が見られるであろうか」〝（ルカによる福音書,18:8）しました。 皆さんは正しい信仰、妥協ない信仰を持って最後まで進む聖徒になってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

神様父を私が信じます

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖徒だちが集まって礼拝する時に使徒信條を暗誦します。 すべての教会とすべての礼拝でそうんなことではないが概してそうです。 使徒信條の暗誦が教会の伝統の中のひとつはそうしなければならない必要があって有益があるからです。 使徒信條は聖書に記録された福音の本質的な真理を簡潔に圧縮しておきました。 そして聖徒信仰の告白文で使うのに容易しました。使徒信條を教会で使うようになった歴史はこのようです。 イエスキリストが天に昇るになさってエルサレム教会が誕生しながら福音は炎のように伝えました。 教会が復興拡張されながら一方では極甚な迫害に直面するようになりました。 彼らは控え目にお互いを確認する必要がありました。 そして彼らの信仰を簡単に表示する方法を考案するようになりました。 初めに彼らの信條を表示する象徴中の一つは魚の表示でした。 “イエスキリストは神様の子の救世主”という五つのギリシャ語の単語の初字を集めれば ‘イックトス’になります。 ‘イックトス’はギリシャ語で魚を意味します。だからキリストの間で魚の表示は “イエスキリストは神様の子でまた私の救世主であるのを私は信じます。” という告白を現わす象徴で使われました。 そして諸所に福音が伝えて教会が設立されながら教会に侵透する異端から純粋な信仰を防御する必要がありました。 そして単純な信條がもっと粋でひろがらなければならない必要が生ずるようになりました。 それによって重要な教理が添加されて行きました。三位一体とかイエスキリストの肉体の復活などでした。
主後 215 年頃に記録された “使徒時代の伝統”という本を見れば洗礼に対する規定が出るのに洗礼を受ける時に聞く三種類の信條が今日の使徒信條にほとんど近いです。 “あなたは全能の神様の父を信じますか? 聖霊で童貞女マリアに孕胎されて生まれてポンデーオピラトによって十字架に釘付けられた事と死亡者の中で三日ぶりにまた生き返えて天に昇り神様の右に座っていらっしゃって将来に生き者と死亡者を審判しにいらっしゃる神様の子であるイエスキリストを信じますか? あなたは聖霊を信じてまた聖なる公会と肉体の復活を信じますか?” 以上の三種類の質問をすれば洗礼受けようとする人が “私は信じます。” と答えて洗礼を受けたと言います。 今日の私たちが使う使徒信條はここでもうちょっと整えられたのです。 5 世紀頃に北アフリカの改宗者だちに説教したオゴスティンは彼らに次のように教えました。 “朝に起きる時と夕方に寝床に入るの毎にあなたの信條を言うが、神様の前でそれを言ってください。 心の中に常にこの信條を持っているがこの信條を繰り返すことを怠らないでください。” この忠告は私たちにも有益なのです。私たちは決して信仰を告白する事を怠ってはいけないです。 そして私たちがこの使徒信條を暗誦する時に意味ない音で度が外れて言うようにしてはいけないです。 使徒信條は “私は神様を信じます。” という告白から始まります。使徒信條の初の部分を見れば “全能であって天地を作った神様父を私が信じます”と言って “全能な” “天地を作った” “父”という用語が羅列されています。 今日はこの用語を分けてよく見ます。

先に、“全能な神様”という部分をよく見ます。

アブラハムが九十九歳になった時に神様がアブラハムに現われて彼におっしゃるのを “「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ。”(創世記 17:1) しました。 出エジプト記 6 章に見ると神様がモセにおっしゃるのを “「わたしは主である わたしはアブラハム、イサク、ヤコブには全能の神として現れたが、主という名では、自分を彼らに知らせなかった。”(出 6:2,3) しました神様は全能で自分の意志どおりすべての事をなさるのができます。
だから私たちが何でも神様に切に求めることができます。 皆さんは使徒信條を暗誦しながら “全能の神様を私が信じます。” と申し上げます。 これは “神様はすべてのものが可能なので私はためらわないで何でも大胆に切に求めて神様を頼ります。”という信仰を告白するのです。

次は、“天地を作った神様”という部分をよく見ます。

聖書に記録された神様の称号の中に三代称号は ‘エロヒム’ ‘エホバ’ ‘アドナイ’です。 ‘エロヒム’は神様に翻訳されて、‘アドナイ’は私の神様に翻訳されます。 ‘エホバ’という名前は聖書に出る神様の固有した名前です。神様がエホバという名前をモセに啓示なさいました。 モセがある日羊を導いてホレブ山に至った時でした。 しばの中の炎のうちに彼に現れた火が付いたが木が燃えないことを見ました。変に思って身近に行った時に神様がしばの中の炎のうちで “モセよ、モセよ”と呼びました。モセが “私がここにいます” と答えると神様がモセにイスラエル子孫をエジプトから導き出して彼らの先祖に約束したガナアン地で導く使命をくださいました。 モセが神様に言いました。 “「わたしがイスラエルの人々のところへ行って、彼らに『あなたがたの先祖の神が、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と言うとき、彼らが『その名はなんというのですか』とわたしに聞くならば、なんと答えましょうか」。神はモーセに言われた、「わたしは、有って有る者」。また言われた、「イスラエルの人々にこう言いなさい、『「わたしは有る」というかたが、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と」。神はまたモーセに言われた、「イスラエルの人々にこう言いなさい『あなたがたの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主が、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と。これは永遠にわたしの名、これは世々のわたしの呼び名である。” (出 3:13～１５)
“私は有って有る者”とは名前は神様の自尊性を意味します。 神様は被造された存在がではないのを意味します。 そうするので “有って有る者”は万有を作った創造者です。 “有って有る者”という名前は神様の永遠性を意味します。 創造主神様は永遠であるから彼の口約束も不変で信実します。 そうするので “有って有る者”である永遠な神様の口約束を信じて行う者は恥にあわないです。 “有って有る者”という名前は神様の絶対性を意味します。世の中のすべてのものなどは相対的な価値や意味を持つことであるが神様は絶対者です。 だから神様の意志と権威を侵犯する者がいないです。 “有って有る者”という名前は神様の唯一性を意味します。 唯一性と言うのはただ一つだけを意味します。 神様は唯一の敬排の対象です。 “私は自らいる有って有る者だと。”お言葉には創造主神様に対してすべての被造物は依存的存在いることを啓示してくれます。

だから私たち人生は神様を完全に寄り掛かって生きて行く時その存在の本当に意味を持つようになります。 皆さんは使徒信條を暗誦しながら “天地を創造した神様を私が信じます。”と申し上げます。 これは “自尊なさって永遠で絶対者で唯一な神様が万有を創造して治める時は手助けで私を面倒を見ることを信じます。”という信仰を告白するのです。

その次は、“神様父”という部分をよく見ます。

神様父という呼称には愛と恵みが限りなくあふれます。 イエス様は私たちに神様を父と呼ぶように教えました。 私たちが必要なことを “天にいらっしゃるわれらの父に” 切に求めなさいと言いました。 “求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見いだし、門をたたく者はあけてもらえるからである。あなたがたのうちで、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者があろうか。魚を求めるのに、へびを与える者があろうか。このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物をすることを知っているとすれば、天にいますあなたがたの父はなおさら、求めてくる者に良いものを下さらないことがあろうか。”(マタイによる福音書 7:7～11)とおっしゃいました。 皆さんは使徒信條を暗誦しながら “神様父を私が信じます。” と申し上げます。 これは “父の神様が私の懇求を聴いて一番良いことに回答してくださることを信じます。” という信仰を告白するのです。
今、今までよく見た内容を整理して見ます。“全能の父なる神を信ず”という信仰告白には三種類の意味があります。
第一、“何でも自分の意志どおり成すことができる全能の神様を私が信じます。” という意味があります。
第二、“ないところで万有があるようになさった創造主神様を私が信じます。” という意味があります。
第三、“子供の懇求をきいて、良いことに回答なさる父の神様を私が信じます。” という意味があります。 極めて恵まれて貴重な内容が込められた信仰告白です。

皆さんは使徒信條を暗誦するたびにこのような知識と信仰を持つようになったことに対する喜びと幸福感を持って暗誦するように願いします。